

# B—52 個人追跡法による日本人女兒の形態発達に関する研究 第一報 身長とゆき寸法の増加について

お茶の水女子大 柳沢 澄子

1. 女兒服の寸法・形態を設定する場合、平均的な形態発達とともに、個体の発達の様相を考慮に入れる必要があると思う。

2. 昭和30年4月小学校に入学した女兒40名について、毎年9月身体計測を行ない、中学校3年まで連続8年間個体の追跡を試みた。項目は身体比例に關係のある10項目と、衣服寸法に關係のある10項目、合計20項目であるが、今回はそのうちの身長とゆき（袖丈+背肩幅/2）について観察した。

3. 主な成績は次のようである。

- (1) 8年間の身長増加については、平均値40.3cm、変異係数6.68、ゆき増加については、平均値19.2cm、変異係数9.61である。
- (2) 身長・ゆきの2項目とも、小学校1年時と8年間の増加量との相関は無相関に近い。
- (3) 身長・ゆきの2項目とも、平均値ではすなおな曲線を示すが、各個体の発達曲線は強い個性を示す。